

7. 環境ホルモン調査結果

(1) 調査の概要

調査地点	調査時期	分析方法
河川 梅田川 御厩橋	夏季	環境庁水質保全局水質管理課編「外因性内分泌攪乱物質調査暫定マニュアル(水質、底質、水生生物)(平成10年10月)」、 「要調査項目等調査マニュアル(水質、底質、水生生物)(平成11年12月)」
神田川 神田川橋	夏季	
海域 渥美湾 A - 3 (神野ふ頭)	夏季	

(2) 調査日

平成15年 8月 4日

(3) 調査結果

3地点で11物質について水質調査を行った結果、ビスフェノールAなど4物質が検出された。

表2 - 生 - 52 環境ホルモン調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{l}^{\circ}$)

調査項目	調査地点 梅田川 御厩橋	神田川 神田川橋	渥美湾A-3 (神野ふ頭)	全国調査結果 (H13年度)
4-n-オクチルフェノール	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
4-t-オクチルフェノール	0.01	< 0.01	0.01	< 0.01 ~ 0.85
ノニルフェノール	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1 ~ 5.9
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	0.4	< 0.3	< 0.3	< 0.3 ~ 5.3
フタル酸ブチルベンジル	< 0.2	< 0.2	< 0.2	< 0.1 ~ 0.1
フタル酸ジ-n-ブチル	< 0.3	< 0.3	< 0.3	< 0.3 ~ 16
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01 ~ 0.19
ビスフェノールA	0.03	< 0.01	0.02	< 0.01 ~ 0.56
スチレンモノマー	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01 ~ 0.14
スチレン2及び3量体	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.01 ~ 0.15
17 -エストラジオール	0.0006	0.0005	0.0016	< 0.0001 ~ 0.0016

(注) 全国調査結果中、スチレン、スチレン2及び3量体は平成11年度結果である。